

第16期

運用報告書(全体版)

日本ニューテクノロジー・オープン (愛称 地球視点)

【2018年12月17日決算】

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「日本ニューテクノロジー・オープン（愛称地球視点）」は、2018年12月17日に第16期決算を迎えましたので、期中の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2010年12月28日から2020年12月15日までです。
運用方針	主として、わが国の金融商品取引所上場株式に投資し、投資信託財産の積極的な成長を目指して運用を行います。 わが国の金融商品取引所上場の株式のうち、世界が注目する次世代産業を担うニューテクノロジーに強みを持つ日本企業の株式に投資します。 ニューテクノロジーとは、新しい価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす技術を指します。 投資にあたっては、ニューテクノロジーにより収益の拡大が期待される企業に着目します。 ボトムアップ・アプローチによる徹底したリサーチにより、銘柄の絞込みを行います。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
投資制限	株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎年6月15日および12月15日(それぞれ休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

○最近5期の運用実績

決算期	基準 (分配落)	基準価額			株組 入比率	株式 先物比率	純資 産額
		税分 込配	み 金	騰 落 率			
	円		円		%	%	百万円
12期(2016年12月15日)	15,159		600		93.9	—	328
13期(2017年6月15日)	15,882		600		95.7	—	322
14期(2017年12月15日)	18,208		900		92.2	—	374
15期(2018年6月15日)	17,992		800		95.4	—	387
16期(2018年12月17日)	14,559		500	△16.3	93.3	—	288

(注) 基準価額および分配金（税引前）は1万口当たり、基準価額の騰落率は分配金（税引前）込み。

(注) 当ファンドは、特定の指数を上回るまたは運動する成果を目指した運用を行っておりません。そのため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

(注) 株式先物比率＝買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

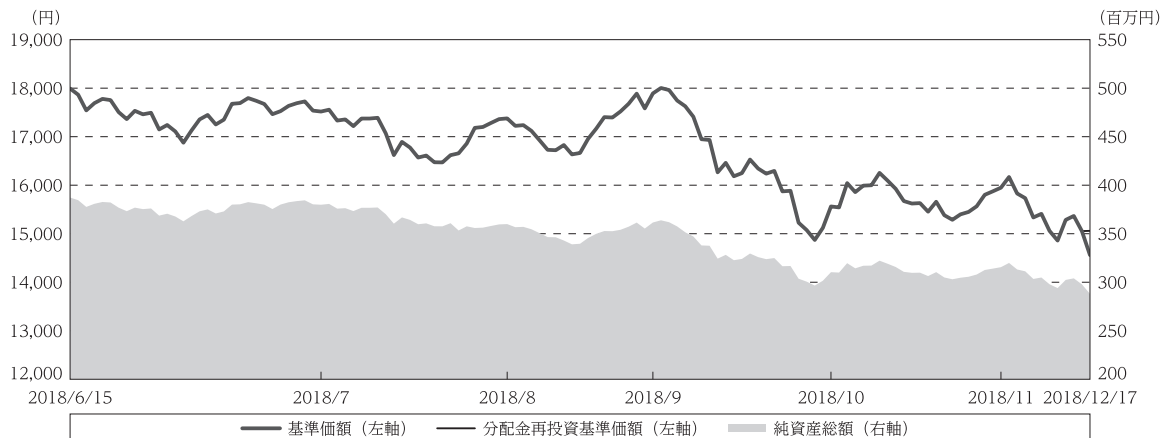
年月日	基準	基準価額		株組 入比率	株式 先物比率
		騰	落率		
(期首) 2018年6月15日	円		%	%	%
	17,992		—	95.4	—
6月末	17,493		△2.8	95.1	—
7月末	17,518		△2.6	92.8	—
8月末	17,377		△3.4	94.9	—
9月末	17,892		△0.6	93.8	—
10月末	15,562		△13.5	93.6	—
11月末	15,949		△11.4	92.3	—
(期末) 2018年12月17日	円		%	%	%
	15,059		△16.3	93.3	—

(注) 期末基準価額は1万口当たり分配金（税引前）込み、騰落率は期首比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2018年6月16日～2018年12月17日)



期首：17,992円

期末：14,559円（既払分配金（税引前）：500円）

騰落率：△ 16.3%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首（2018年6月15日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・業種配分では、医薬品、陸運業が基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、ファーストリテイリング、中外製薬、ペプチドリームなどが基準価額にプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・業種配分では、電気機器、化学、小売業などが基準価額にマイナスに影響しました。
- ・個別銘柄では、ZOZO（旧スタートトゥデイ）、SCREENホールディングス、日本電産などが基準価額にマイナスに影響しました。

投資環境

(2018年6月16日～2018年12月17日)

国内株式市場は、期首から2018年9月中旬にかけては、米中貿易摩擦への警戒や国内企業の業績拡大に対する期待などが交錯し、一進一退の展開となりました。その後、10月初旬にかけては、米国における良好な景気指標の発表などを背景に海外株式市場が上昇したことや、為替市場において円安ドル高が進行し国内企業の業績上方修正への期待が高まったことなどから、一時上昇しました。しかし、期末にかけては、米中貿易摩擦の激化による世界経済への悪影響が意識されるなか、投資家のリスク回避姿勢が強まり、世界的に株式市場が下落したことを受けて、国内株式市場も下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2018年6月16日～2018年12月17日)

当期は、高度な技術力をベースに、自動車やインターネット、エネルギー等の各分野で優位性を発揮できると判断した企業に選別投資する方針で臨みました。

個別銘柄では、中長期でのバイオテクノロジー分野の成長性に着目したペプチドリームや、株価下落により株価指標面での割安感が強まったと判断した安川電機などを新規に組み入れた一方、プライベートブランドの立ち上がり株式市場での期待を下回り成長期待が後退すると考えたZOOや、相対的に多い新興国での販売動向の先行きに不透明感があると考えたセイコーエプソンなどを売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年6月16日～2018年12月17日)

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2018年6月16日～2018年12月17日)

当ファンドは毎年6月15日および12月15日（それぞれ休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象収益とします。分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。

当期の分配につきましては、1万口当たり500円（税引前）とさせていただきます。なお、収益分配に充てなかつた留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第16期
	2018年6月16日～ 2018年12月17日
当期分配金	500
(対基準価額比率)	3.320%
当期の収益	—
当期の収益以外	500
翌期繰越分配対象額	4,587

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドでは世界が注目する次世代産業を担うニューテクノロジーに強みを持ち、収益の拡大が期待される企業に選別投資を行います。当面は、①足元で進展している I o T（Internet of Things、モノのインターネット）や自動車の電装化により恩恵を受ける企業、②技術革新が続く半導体分野で競争力のある企業、③人工知能（A I）の活用や次世代通信規格である 5 G（第 5 世代移動通信システム）の商用化などにより変化する I T（情報技術）分野で新たに需要を創出できる企業などに着目し組入銘柄を選別する方針です。また、相対的に業績推移に安心感のある銘柄の中から、株価下落で割安感が強まっていると考えられる銘柄についても買い付けていく方針です。一方で、成長性は高いものの株式市場での期待が高い銘柄につきましては慎重なスタンスで臨む方針です。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2018年6月16日～2018年12月17日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 130	% 0.766	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(60)	(0.356)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(65)	(0.383)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(5)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	23	0.133	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(23)	(0.133)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	154	0.905	
期中の平均基準価額は、16,965円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2018年6月16日～2018年12月17日)

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		50	161,206	62	202,864
		(△ 9)	(-)		

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2018年6月16日～2018年12月17日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	364,070千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	328,812千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.10

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2018年6月16日～2018年12月17日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 161	百万円 55	% 34.2	百万円 202	百万円 79	% 39.1

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	464千円
うち利害関係人への支払額 (B)	167千円
(B) / (A)	36.1%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2018年12月17日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
化学 (10.6%)				
信越化学工業	0.6	0.6	5,489	
堺化学工業	—	1.2	3,000	
住友ベークライト	8	1.6	6,240	
資生堂	1.4	1.2	8,521	
タカラバイオ	1.9	1.9	5,342	
医薬品 (13.9%)				
協和発酵キリン	2.6	2.6	5,956	
中外製薬	1	1	7,280	
JCRファーマ	0.7	1.5	8,235	
大塚ホールディングス	1.1	1.1	5,912	
ペプチドリーム	—	2.1	9,922	
ガラス・土石製品 (3.0%)				
ノリタケカンパニーリミテド	—	0.8	3,704	
MARUWA	0.9	0.7	4,396	
鉄鋼 (1.1%)				
ジェイ エフ イー ホールディングス	—	1.6	3,026	
非鉄金属 (—%)				
住友金属鉱山	1.6	—	—	
機械 (2.4%)				
三浦工業	1.6	1.1	2,989	
ディスコ	0.2	—	—	
オプトラン	1.3	—	—	
小松製作所	1.3	1.3	3,342	
電気機器 (27.8%)				
日立製作所	4	0.8	2,576	
三菱電機	—	4.3	5,615	
安川電機	—	2.7	8,113	
日本電産	1.2	0.4	5,528	
第一精工	2.7	—	—	
日本電気	1.3	—	—	
ルネサスエレクトロニクス	5.7	—	—	
セイコーエプソン	4.2	—	—	
能美防災	1.7	—	—	
パナソニック	3.5	—	—	
アンリツ	4.3	4.3	7,172	
ソニー	—	0.5	2,919	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
アドバンテスト	1.6	—	—	
キーエンス	0.2	0.2	11,436	
シスメックス	0.7	—	—	
カシオ計算機	3.7	—	—	
ファナック	0.2	0.3	5,073	
ローム	0.4	0.8	5,720	
浜松トニクス	1.9	1.9	7,153	
村田製作所	0.5	0.2	3,268	
SCREENホールディングス	0.6	0.8	4,048	
キャノン	—	1.9	6,024	
輸送用機器 (9.2%)				
デンソー	1	0.6	3,054	
いすゞ自動車	—	3	4,930	
トヨタ自動車	—	1	6,840	
豊田合成	2.6	2	4,540	
エフ・シー・シー	2	2	5,308	
精密機器 (7.1%)				
島津製作所	6	2.3	5,462	
ジーエルサイエンス	2.4	2.4	3,264	
ブイ・テクノロジー	—	0.3	4,275	
HOYA	—	0.9	6,160	
その他製品 (—%)				
NISSHA	0.5	—	—	
陸運業 (2.6%)				
東海旅客鉄道	0.2	0.3	7,045	
情報・通信業 (14.1%)				
新日鉄住金ソリューションズ	—	2	5,710	
エコモット	—	2.9	3,358	
トレンドマイクロ	1.7	0.5	3,195	
日本オラクル	0.9	0.6	4,278	
日本ユニシス	4.2	1.4	3,941	
日本電信電話	0.8	—	—	
ソフトバンク	—	4	6,000	
SCSK	1.6	1.3	5,336	
ソフトバンクグループ	1.5	0.7	5,978	
卸売業 (—%)				
日立ハイテクロジーズ	1.3	—	—	

日本ニューテクノロジー・オープン（愛称 地球視点）

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
小売業 (3.9%)			
ZOZO	2.3	—	—
ニトリホールディングス	0.4	0.3	4,434
ファーストリテイリング	0.3	0.1	6,099
証券、商品先物取引業 (2.3%)			
SBIホールディングス	3.3	2.5	6,090

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
保険業 (2.0%)			
第一生命ホールディングス	—	2.8	5,286
合 計	株 数・金 額	95	73
	銘柄数<比率>	50	50
			<93.3%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2018年12月17日現在)

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	268,594	89.4
コール・ローン等、その他	31,983	10.6
投資信託財産総額	300,577	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2018年12月17日現在）

項目	当期末
	円
(A) 資産	300,577,042
コール・ローン等	22,717,208
株式(評価額)	268,594,600
未収入金	9,227,234
未収配当金	38,000
(B) 負債	12,563,494
未払収益分配金	9,891,525
未払信託報酬	2,652,979
未払利息	46
その他未払費用	18,944
(C) 純資産総額(A-B)	288,013,548
元本	197,830,500
次期繰越損益金	90,183,048
(D) 受益権総口数	197,830,500口
1万口当たり基準価額(C/D)	14,559円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1,4559円です。
(注) 当ファンドの期首元本額は215,258,451円、期中追加設定元本額は2,217,893円、期中一部解約元本額は19,645,844円です。

○損益の状況（2018年6月16日～2018年12月17日）

項目	当期
	円
(A) 配当等収益	1,971,098
受取配当金	1,977,628
受取利息	50
その他収益金	79
支払利息	△ 6,659
(B) 有価証券売買損益	△ 57,186,157
売買益	10,151,308
売買損	△ 67,337,465
(C) 信託報酬等	△ 2,672,317
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 57,887,376
(E) 前期繰越損益金	56,954,136
(F) 追加信託差損益金	101,007,813
(配当等相当額)	(43,691,113)
(売買損益相当額)	(57,316,700)
(G) 計(D+E+F)	100,074,573
(H) 収益分配金	△ 9,891,525
次期繰越損益金(G+H)	90,183,048
追加信託差損益金	101,007,813
(配当等相当額)	(43,691,113)
(売買損益相当額)	(57,316,700)
分配準備積立金	47,062,611
繰越損益金	△ 57,887,376

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注) 収益分配金

決算期	第16期
(a) 配当等収益(費用控除後)	0円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	43,691,113円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	56,954,136円
分配対象収益(a+b+c+d)	100,645,249円
分配対象収益(1万口当たり)	5,087円
分配金額	9,891,525円
分配金額(1万口当たり)	500円

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税引前)	500円
支払開始日	2018年12月21日(金)までの間に支払いを開始します。
お支払場所	取得申込みを取扱った販売会社の本店

＜お知らせ＞

該当事項はございません。

用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
資産	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
負債	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
純資産総額(資産－負債)	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
受益権総口数	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
配当等収益	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
有価証券売買損益	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
信託報酬等	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
当期損益金	当期における収支合計です。
前期繰越損益金	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
追加信託差損益金	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
計	収益分配前の期中の収支の総合計です。
収益分配金	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
次期繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。